科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ栄養学		柔道整復学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

食物、人体、環境要因という栄養学の基本を総合的に学び、健康の維持・増進、そしてスポーツ選手の競技力向上に果たす栄養学の役割を十分に理解する.

授業終了時の到達目標

食物、人体、環境要因という栄養学の基本を総合的に学び、健康の維持・増進、そしてスポーツ選手の競技力向上に果たす栄養学の役割を十分に理解することを目標とする。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	スポーツ栄養学1	栄養素と食品の基礎知識
2	スポーツ栄養学2	身体の仕組み（消化）
3	スポーツ栄養学3	身体の仕組み（食物摂取と消化・吸収・代謝）
4	スポーツ栄養学4	身体の仕組み（身体組成）
5	スポーツ栄養学5	エネルギー代謝（摂取エネルギーと消費エネルギー）
6	スポーツ栄養学6	エネルギー代謝（摂取エネルギーと消費エネルギー）
7	スポーツ栄養学7	コンディショニングのための栄養（自己管理、内臓疲労、エネルギー補給）
8	スポーツ栄養学8	コンディショニングのための栄養（アスリートの食事、糖質の摂取、脂質の摂取）
9	スポーツ栄養学9	コンディショニングのための栄養（タンパク質の摂取、ビタミンの摂取、サプリメント）
10	スポーツ栄養学10	競技力向上のための栄養（水分摂取、試合での食事、減量、貧血と予防策）
11	スポーツ栄養学11	競技力向上のための栄養（身体づくりとカルシウム摂取量、女性の身体、ドーピング）
12	スポーツ栄養学12	世代別にみるスポーツ栄養の考え方と栄養サポート
13	スポーツ栄養学13	健康増進と栄養
14	スポーツ栄養学14	期末試験
15	スポーツ栄養学15	解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
スポーツ栄養学(鈴木志保子)	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ心理学		柔道整復学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

人間関係の中で生じる心理現象について広く理解し、スポーツの現場や運動指導、または施術などの臨床現場で患者との良好な関係を形成、維持するための応用的な思考を身に付ける。

授業終了時の到達目標

人間関係の中で生じる心理現象について広く理解し、スポーツの現場や運動指導、または施術などの臨床現場で患者との良好な関係を形成、維持するための応用的な思考を身に付けることを目標とする。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	スポーツ心理学１	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明
2	スポーツ心理学2	発達心理（発育）
3	スポーツ心理学3	発達心理学（発育）
4	スポーツ心理学4	学習心理（運動心理）
5	スポーツ心理学5	学習心理（運動心理）
6	スポーツ心理学6	動機づけ
7	スポーツ心理学7	古典的条件づけ
8	スポーツ心理学8	社会心理（社会的認知・行動、チームワークおよびリーダーシップ）
9	スポーツ心理学9	健康心理（健康増進における心理と活用）
10	スポーツ心理学10	健康心理（健康増進における心理と活用）
11	スポーツ心理学11	スポーツ競技における心理
12	スポーツ心理学12	スポーツ競技における心理
13	スポーツ心理学13	メンタルトレーニング
14	スポーツ心理学14	臨床心理（カウンセリングマインド）
15	スポーツ心理学15	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
やさしい心理学（水田恵三）	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報リテラシーⅠ		柔道整復学科／1年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

講義

授業終了時の到達目標

モバイル デバイスやネットワーキング テクノロジーから仮想化、クラウド コンピューティングなど、今日のコア テクノロジーを理解する

回	テ　ー　マ	内　　容
1	IT Essentials の概要	GUI
2	はじめに	パーソナルコンピュータの概要。
3	ラボの手順とツールの使用方法	職場の基本的な安全対策、ハードウェア ツールとソフトウェア ツール、および有害物質の廃棄について説明します
4	コンピュータの組み立て１	コンピュータの組み立ては、技術者の仕事の大部分を占めます。
5	コンピュータの組み立て２	コンピュータの組み立ては、技術者の仕事の大部分を占めます。
6	コンピュータの組み立て３	コンピュータの組み立ては、技術者の仕事の大部分を占めます。
7	予防保守の概要	予防保守は、満了した部品、資材、システムについて、定期的で組織的な点検、クリーニング、交換を行います
8	オペレーティング システム	OS の用語と特性
9	オペレーティング システム２	オペレーティング システムのインストール
10	オペレーティング システム３	オペレーティング システムのトラブルシューティング
11	ネットワーク１	ネットワークの原則、標準、および目的の概要について説明します。
12	ネットワーク２	ネットワーク インストールの手順
13	ネットワーク3	ネットワークトラブルシューティング
14	ノート PC１	ラップトップPCの構成
15	ノート PC２	ラップトップのハードウェアと部品の取り付けおよび設定

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
cisco academy IT Essentials: PC Hardware and Software	出席率 確認テスト	50.0% 50.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
保健体育		柔道整復学科／1年	2024／通年	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
分	30回	2単位（90時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになる。

授業終了時の到達目標

スポーツに携わる者が知っておくべき基礎知識について学ぶ。様々なトレーニング方法がもたらす効果を理解し、目的に応じてトレーニング方法を選択し、処方できるようになることを目標とする。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	保健体育１	体力学総論（体力の概念、トレーニング理論）
2	保健体育2	機能解剖（上肢）
3	保健体育3	機能解剖（脊柱と胸郭）
4	保健体育4	機能解剖（下肢）
5	保健体育5	運動指導の科学（体育教育法）
6	保健体育6	運動指導の科学（コーチング理論）
7	保健体育7	トレーニング指導者論（運動指導論・運動処方論・運動教授論）
8	保健体育8	トレーニング計画の立案
9	保健体育9	筋力トレーニングのプログラム作成
10	保健体育10	筋力トレーニングのプログラム作成
11	保健体育11	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成
12	保健体育12	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成
13	保健体育13	有酸素・無酸素トレーニングの理論とプログラム作成
14	保健体育14	有酸素・無酸素トレーニングの理論とプログラム作成
15	保健体育15	前期期末試験

回	テ　ー　マ	内　　容
16	保健体育16	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成
17	保健体育17	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成
18	保健体育18	ウォームアップ、柔軟性トレーニングの理論
19	保健体育19	ウォームアップ、柔軟性トレーニングの理論
20	保健体育20	特別な対象のトレーニングとプログラム
21	保健体育21	特別な対象のトレーニングとプログラム
22	保健体育22	傷害の受傷から復帰までのトレーニング
23	保健体育23	傷害の受傷から復帰までのトレーニング
24	保健体育24	トレーニング効果の測定と評価の実際
25	保健体育25	測定データの活用とフィードバック
26	保健体育26	トレーニングの運営
27	保健体育27	トレーニングの運営
28	保健体育28	運動指導のための情報収集と活用
29	保健体育29	運動指導のための情報収集と活用
30	保健体育30	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
トレーニング指導者テキスト	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅰ		柔道整復学科／1年	2024／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

人体の正常な構造と機能を統合的に学習し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につける。

授業終了時の到達目標

人体の正常な構造と機能を統合的に学習し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎知識を身につけることにある。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	解剖学Ⅰ	解剖学概説
2	解剖学2	人体の区分
3	解剖学3	骨格系総論、骨の役割ほか
4	解剖学4	脊柱
5	解剖学5	胸郭
6	解剖学6	上肢骨
7	解剖学7	上肢の関節
8	解剖学8	下肢骨
9	解剖学9	下肢の関節
10	解剖学10	頭蓋
11	解剖学11	頭蓋
12	解剖学12	筋系　骨格筋（起始・停止・作用ほか）
13	解剖学13	頭部の筋
14	解剖学14	頭部の筋
15	解剖学15	前期期末試験

回	テ　ー　マ	内　　容
16	解剖学16	胸部の筋
17	解剖学17	呼吸運動
18	解剖学18	腹部の筋
19	解剖学19	背部の筋
20	解剖学20	上肢の筋
21	解剖学21	上肢の筋
22	解剖学22	下肢の筋
23	解剖学23	下肢の筋
24	解剖学24	内分泌系の働き
25	解剖学25	内分泌系の働き
26	解剖学26	内分泌系の働き
27	解剖学27	神経系の基礎
28	解剖学28	脳
29	解剖学29	脳
30	解剖学30	後期期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　解剖学	中間試験 期末試験	50.0% 50.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学・衛生学		柔道整復学科／1年	2024／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

医療と保健衛生との関わり、生活において健康とは何かを学習する。

授業終了時の到達目標

医療と保健衛生との関わり、生活において健康とは何かを学ぶことを目標とする

回	テ　ー　マ	内　　容
1	公衆衛生学・衛生学1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動
2	公衆衛生学・衛生学2	健康の概念
3	公衆衛生学・衛生学3	健康の概念
4	公衆衛生学・衛生学4	疾病予防と健康管理
5	公衆衛生学・衛生学5	感染症の予防
6	公衆衛生学・衛生学6	感染症の予防
7	公衆衛生学・衛生学7	消毒
8	公衆衛生学・衛生学8	消毒
9	公衆衛生学・衛生学9	環境保健
10	公衆衛生学・衛生学10	環境保健
11	公衆衛生学・衛生学11	母子保健
12	公衆衛生学・衛生学12	学校保健
13	公衆衛生学・衛生学13	産業保健
14	公衆衛生学・衛生学14	産業保健
15	公衆衛生学・衛生学15	前期期末試験

回	テ　ー　マ	内　　容
16	公衆衛生学・衛生学16	成人・老人保健
17	公衆衛生学・衛生学17	成人・老人保健
18	公衆衛生学・衛生学18	精神保健
19	公衆衛生学・衛生学19	生活環境・食品衛生活動
20	公衆衛生学・衛生学20	生活環境・食品衛生活動
21	公衆衛生学・衛生学21	生活環境・食品衛生活動
22	公衆衛生学・衛生学22	地域保健と国際保健
23	公衆衛生学・衛生学23	地域保健と国際保健
24	公衆衛生学・衛生学24	衛生行政と保健医療の制度
25	公衆衛生学・衛生学25	衛生行政と保健医療の制度
26	公衆衛生学・衛生学26	疫学
27	公衆衛生学・衛生学27	疫学
28	公衆衛生学・衛生学28	疫学
29	公衆衛生学・衛生学29	疫学
30	公衆衛生学・衛生学30	後期期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　衛生学・公衆衛生学	期末試験	100.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅰ		柔道整復学科／1年	2024／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶ

授業終了時の到達目標

柔道整復師の業務の中で最も重要な骨の損傷の基礎を学ぶ、また関節可動域測定を学ぶことを目的とする。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	基礎柔道整復学Ⅰ　1	骨の形態と機能
2	基礎柔道整復学Ⅰ　2	骨損傷の分類
3	基礎柔道整復学Ⅰ　3	骨折の症状
4	基礎柔道整復学Ⅰ　4	骨折の合併症
5	基礎柔道整復学Ⅰ　5	小児骨折
6	基礎柔道整復学Ⅰ　6	高齢者骨折の特徴
7	基礎柔道整復学Ⅰ　7	骨折の癒合日数
8	基礎柔道整復学Ⅰ　8	骨の治癒課程
9	基礎柔道整復学Ⅰ　9	骨折治癒に影響を与える因子
10	基礎柔道整復学Ⅰ　10	骨折の治療法　整復法
11	基礎柔道整復学Ⅰ　11	整復法の分類
12	基礎柔道整復学Ⅰ　12	骨折の固定法
13	基礎柔道整復学Ⅰ　13	固定法に用いる材料
14	基礎柔道整復学Ⅰ　14	まとめ
15	基礎柔道整復学Ⅰ　15	前期期末試験

回	テ　ー　マ	内　　容
16	基礎柔道整復学Ⅰ　16	関節可動域ならびに測定法
17	基礎柔道整復学Ⅰ　17	関節可動域ならびに測定法
18	基礎柔道整復学Ⅰ　18	関節可動域ならびに測定法
19	基礎柔道整復学Ⅰ　19	関節可動域ならびに測定法
20	基礎柔道整復学Ⅰ　20	関節可動域ならびに測定法
21	基礎柔道整復学Ⅰ　21	関節可動域ならびに測定法
22	基礎柔道整復学Ⅰ　22	関節可動域ならびに測定法
23	基礎柔道整復学Ⅰ　23	関節可動域ならびに測定法
24	基礎柔道整復学Ⅰ　24	徒手検査法の意義
25	基礎柔道整復学Ⅰ　25	徒手検査法の注意
26	基礎柔道整復学Ⅰ　26	痛みの科学と臨床骨折の疼痛
27	基礎柔道整復学Ⅰ　27	痛みの科学と臨床骨折の疼痛
28	基礎柔道整復学Ⅰ　28	痛みの科学と臨床軟部組織損傷の疼痛
29	基礎柔道整復学Ⅰ　29	痛みの科学と臨床
30	基礎柔道整復学Ⅰ　30	後期期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学（理論編）	出席率 授業態度 期末試験	15.0% 10.0% 75.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅱ		柔道整復学科／1年	2024／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師の業務範囲である脱臼と関節の損傷の基礎を学ぶ、また体幹の損傷顎関節損傷を学ぶ

授業終了時の到達目標

柔道整復師の業務範囲である脱臼と関節の損傷の基礎を学ぶ、また体幹の損傷顎関節損傷を学ぶことを目的とする。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	基礎柔道清風学Ⅱ　1	関節の概要構造
2	基礎柔道清風学Ⅱ　2	関節の種類
3	基礎柔道清風学Ⅱ　3	関節の損傷：関節の構造と形態
4	基礎柔道清風学Ⅱ　4	関節の損傷：関節の構造と形態
5	基礎柔道清風学Ⅱ　5	関節の損傷：関節損傷の概説
6	基礎柔道清風学Ⅱ　6	関節の損傷：関節損傷の概説
7	基礎柔道清風学Ⅱ　7	関節の損傷：関節構成組織損傷
8	基礎柔道清風学Ⅱ　8	関節の損傷：関節構成組織損傷
9	基礎柔道清風学Ⅱ　9	関節の損傷：脱臼
10	基礎柔道清風学Ⅱ　10	関節の損傷：脱臼
11	基礎柔道清風学Ⅱ　11	脱臼の整復法
12	基礎柔道清風学Ⅱ　12	脱臼の整復法
13	基礎柔道清風学Ⅱ　13	脱臼の固定法
14	基礎柔道清風学Ⅱ　14	脱臼の固定期間
15	基礎柔道清風学Ⅱ　15	期末試験

回	テ　ー　マ	内　　容
16	基礎柔道清風学Ⅱ　16	顎関節脱臼分類
17	基礎柔道清風学Ⅱ　17	顎関節脱臼特徴
18	基礎柔道清風学Ⅱ　18	顎関節脱臼整復・固定
19	基礎柔道清風学Ⅱ　19	顎関節脱臼と鑑別すべき外傷　顎関節症
20	基礎柔道清風学Ⅱ　20	胸部の骨折　胸骨骨折
21	基礎柔道清風学Ⅱ　21	胸部の骨折　胸骨骨折
22	基礎柔道清風学Ⅱ　22	胸部の骨折　胸骨骨折と鑑別を要する疾患　胸部の軟部組織損傷
23	基礎柔道清風学Ⅱ　23	胸部の骨折　胸骨骨折と鑑別を要する疾患　胸部の軟部組織損傷
24	基礎柔道清風学Ⅱ　24	脊椎部の損傷　頚椎骨折
25	基礎柔道清風学Ⅱ　25	脊椎部の損傷　胸椎・腰椎骨折
26	基礎柔道清風学Ⅱ　26	脊椎部の損傷　脱臼
27	基礎柔道清風学Ⅱ　27	脊椎部の損傷　軟部組織損傷腰痛を除く
28	基礎柔道清風学Ⅱ　28	脊椎部の損傷　軟部組織損傷
29	基礎柔道清風学Ⅱ　29	脊椎部の損傷　軟部組織損傷
30	基礎柔道清風学Ⅱ　30	後期期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学（理論編）	出席率 授業態度 期末試験	15.0% 10.0% 75.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅰ		柔道整復学科／1年	2024／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位（60時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復学総論を通じ、各論に繋がる骨折、脱臼、軟部組織損傷に伴う損傷の知識を習得する。

授業終了時の到達目標

柔道整復学総論を通じ、各論に繋がる骨折、脱臼、軟部組織損傷に伴う損傷の知識習得を目的とする。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	臨床柔道整復学Ⅰ　1	柔道整復術及び柔道整復師の沿革
2	臨床柔道整復学Ⅰ　2	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領
3	臨床柔道整復学Ⅰ　3	柔道整復師とは（概論）人体に加わる力
4	臨床柔道整復学Ⅰ　4	損傷に関する身体の基礎的状態
5	臨床柔道整復学Ⅰ　5	末梢神経の損傷：神経の構造と機能
6	臨床柔道整復学Ⅰ　6	末梢神経の損傷：神経損傷の概説
7	臨床柔道整復学Ⅰ　7	末梢神経の損傷：神経損傷の症状
8	臨床柔道整復学Ⅰ　8	血管系、リンパ系の損傷：四肢血管損傷の概説
9	臨床柔道整復学Ⅰ　9	血管系、リンパ系の損傷：血管損傷の症状
10	臨床柔道整復学Ⅰ　10	血管系、リンパ系の損傷：血管損傷の症状
11	臨床柔道整復学Ⅰ　11	皮膚の損傷：皮膚の形態と機能
12	臨床柔道整復学Ⅰ　12	筋の損傷：筋の形態と機能
13	臨床柔道整復学Ⅰ　13	筋の損傷：筋損傷の概説
14	臨床柔道整復学Ⅰ　14	筋の損傷：筋損傷の症状
15	臨床柔道整復学Ⅰ　15	前期期末試験

回	テ　ー　マ	内　　容
16	臨床柔道整復学Ⅰ　16	筋の損傷：筋損傷の予後
17	臨床柔道整復学Ⅰ　17	腱の損傷：腱の構造と機能
18	臨床柔道整復学Ⅰ　18	腱の損傷：腱損傷の概説
19	臨床柔道整復学Ⅰ　19	腱の損傷：腱損傷の症状
20	臨床柔道整復学Ⅰ　20	末梢神経の損傷の復習
21	臨床柔道整復学Ⅰ　21	末梢神経の損傷の復習
22	臨床柔道整復学Ⅰ　22	評価
23	臨床柔道整復学Ⅰ　23	評価
24	臨床柔道整復学Ⅰ　24	評価
25	臨床柔道整復学Ⅰ　25	血管系・リンパ系の損傷の復習
26	臨床柔道整復学Ⅰ　26	筋の損傷の復習
27	臨床柔道整復学Ⅰ　27	腱の損傷の復習
28	臨床柔道整復学Ⅰ　28	総復習
29	臨床柔道整復学Ⅰ　29	総復習
30	臨床柔道整復学Ⅰ　30	後期期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学（理論編）	中間試験 期末試験 授業態度 出席率	40.0% 40.0% 10.0% 10.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎実技Ⅰ		柔道整復学科／1年	2024／通年	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
分	30回	2単位（90時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師は、緩まず確実かく合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術を習得。

授業終了時の到達目標

柔道整復師は、緩まず確実かく合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とする。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	基礎実技Ⅰ　1	固定の目的
2	基礎実技Ⅰ　2	固定材料の種類（硬性材料・軟性材料）
3	基礎実技Ⅰ　3	包帯の巻き方の基礎・巻軸帯の巻き戻し
4	基礎実技Ⅰ　4	環行帯・螺旋帯・蛇行帯
5	基礎実技Ⅰ　5	折転帯・亀甲帯・麦穂帯
6	基礎実技Ⅰ　6	冠名包帯：デゾー包帯
7	基礎実技Ⅰ　7	冠名包帯：デゾー包帯
8	基礎実技Ⅰ　8	冠名包帯：ヴェルポー包帯
9	基礎実技Ⅰ　9	冠名包帯：ヴェルポー包帯
10	基礎実技Ⅰ　10	冠名包帯：ジュール包帯
11	基礎実技Ⅰ　11	冠名包帯：ジュール包帯
12	基礎実技Ⅰ　12	部位別包帯：頭部・顔面部
13	基礎実技Ⅰ　13	部位別包帯：肩部
14	基礎実技Ⅰ　14	部位別包帯：肘部
15	基礎実技Ⅰ　15	前期期末試験

回	テ　ー　マ	内　　容
16	基礎実技Ⅰ　16	部位別包帯：前腕部
17	基礎実技Ⅰ　17	部位別包帯：手関節部
18	基礎実技Ⅰ　18	部位別包帯：手指部
19	基礎実技Ⅰ　19	部位別包帯：股関節部
20	基礎実技Ⅰ　20	部位別包帯：大腿部
21	基礎実技Ⅰ　21	部位別包帯：膝関節部
22	基礎実技Ⅰ　22	部位別包帯：下腿部
23	基礎実技Ⅰ　23	部位別包帯：足関節部
24	基礎実技Ⅰ　24	部位別包帯：足指部
25	基礎実技Ⅰ　25	部位別包帯：胸部・背部
26	基礎実技Ⅰ　26	三角巾を使う
27	基礎実技Ⅰ　27	三角巾を使う
28	基礎実技Ⅰ　28	下腿の麦穂帯
29	基礎実技Ⅰ　29	下腿の麦穂帯
30	基礎実技Ⅰ　30	後期期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　包帯固定学	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎実技Ⅱ		柔道整復学科／1年	2024／通年	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
分	30回	2単位（90時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師は、緩まず確実かく合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を行う。ギプスも行う。

授業終了時の到達目標

柔道整復師は、緩まず確実かく合理的な包帯を巻き、患部を安静に保つことが要求される。そのため臨床に基づいた技術の習得を目的とし、ギプスも行う。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	基礎実技Ⅱ　1	テーピングの種類
2	基礎実技Ⅱ　2	足部のテーピング
3	基礎実技Ⅱ　3	足部のテーピング
4	基礎実技Ⅱ　4	膝部のテーピング
5	基礎実技Ⅱ　5	膝部のテーピング
6	基礎実技Ⅱ　6	肘部のテーピング
7	基礎実技Ⅱ　7	肘部のテーピング
8	基礎実技Ⅱ　8	手関節のテーピング
9	基礎実技Ⅱ　9	手関節のテーピング
10	基礎実技Ⅱ　10	指部のテーピング
11	基礎実技Ⅱ　11	指部のテーピング
12	基礎実技Ⅱ　12	復習
13	基礎実技Ⅱ　13	復習
14	基礎実技Ⅱ　14	復習
15	基礎実技Ⅱ　15	前期期末試験

回	テ　ー　マ	内　　容
16	基礎実技Ⅱ　16	キネシオテーピングの取り扱い
17	基礎実技Ⅱ　17	肩部・上腕部のテーピング
18	基礎実技Ⅱ　18	肩部・上腕部のテーピング
19	基礎実技Ⅱ　19	体幹・腰部のテーピング
20	基礎実技Ⅱ　20	体幹・腰部のテーピング
21	基礎実技Ⅱ　21	大腿・下腿のテーピング
22	基礎実技Ⅱ　22	大腿・下腿のテーピング
23	基礎実技Ⅱ　23	プライトンの作成
24	基礎実技Ⅱ　24	プライトンの作成
25	基礎実技Ⅱ　25	クラ―メルシーネの作成
26	基礎実技Ⅱ　26	クラ―メルシーネの作成
27	基礎実技Ⅱ　27	アルフェンス作成
28	基礎実技Ⅱ　28	アルフェンス作成
29	基礎実技Ⅱ　29	アルフェンス作成
30	基礎実技Ⅱ　30	後期期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　包帯固定学	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅲ（人体の構造と機能）		柔道整復学科／3年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位（34時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師になるにあたって必要な解剖学の知識を学習する。十分な演習を通じて知識の定着を目指す。授業では板書、配布レジェメをおもに使用する。

授業終了時の到達目標

柔道整復師になるにあたって必要な解剖学の知識を学習する。十分な演習を通じて国家試験に必要十分な知識の定着を目指す。
臓器の構造だけでなく機能にも触れて相互理解を深めていく。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	解剖学概論	細胞小器官　DNA　RNA
2	骨	骨学
3	筋	筋学
4	呼吸器系	肺、気管支、呼吸の仕組み
5	消化器系総論	口腔　咽頭　食道
6	消化器系各論	胃　腸　肝臓　膵臓
7	消化器演習	消化器全般
8	脈管系総論	主要な動脈　心臓　循環
9	脈管系各論	動脈の枝　静脈
10	脈管系演習	脈管系全般
11	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱
12	生殖器系	男性生殖器、女性生殖器
13	泌尿器、生殖器演習	泌尿器消化器全般
14	内分泌系総論	内分泌器官
15	内分泌系各論	ホルモンの働き

回	テ　ー　マ	内　　容
16	期末試験	期末試験
17	試験解説	試験解説、まとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
解剖学　改定第2版	中間試験 期末試験	40.0% 60.0%	期末試験、出席率、授業態度を総合的に評価する

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動学Ⅱ（人体の構造と機能）		柔道整復学科／3年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位（34時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目的とする。

授業終了時の到達目標

運動系の解剖生理学の基礎を学び総合的な理解を深めることを目標とする。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	運動学Ⅱ1	顔面および頭部の運動
2	運動学Ⅱ2	面および頭部の運動
3	運動学Ⅱ3	姿勢の分類
4	運動学Ⅱ4	立位姿勢の制御
5	運動学Ⅱ5	歩行周期
6	運動学Ⅱ6	歩行のエネルギー代謝
7	運動学Ⅱ7	歩行のエネルギー代謝
8	運動学Ⅱ8	異常歩行
9	運動学Ⅱ9	バイオメカニクスの基礎理論
10	運動学Ⅱ10	スポーツおよびトレーニング動作のバイオメカニクス
11	運動学Ⅱ11	神経組織の成熟
12	運動学Ⅱ12	歩行運動
13	運動学Ⅱ13	歩行運動
14	運動学Ⅱ14	運動学習
15	運動学Ⅱ15	総復習

回	テ　ー　マ	内　　容
16	運動学Ⅱ16	期末試験
17	運動学Ⅱ17	解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　運動学	中間試験 出席率 期末試験	50.0% 0.0% 50.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
一般臨床医学Ⅱ（疾病と障害）		柔道整復学科／3年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位（34時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

一般的に内科学で扱われる日常臨床医学の基礎を総論で学び、各論では疾患の定義、原因、症状、検査、
治療、予後などを、臨床の場において多い代表的な疾患について学習する。

授業終了時の到達目標

臨床医学一般に関する知識の習得

回	テ　ー　マ	内　　容
1	一般臨床Ⅱ1	医療面接
2	一般臨床Ⅱ2	視診・打診
3	一般臨床Ⅱ3	聴診・腹診
4	一般臨床Ⅱ4	検査法
5	一般臨床Ⅱ5	呼吸器疾患
6	一般臨床Ⅱ6	循環器疾患
7	一般臨床Ⅱ7	消化器疾患
8	一般臨床Ⅱ8	代謝疾患
9	一般臨床Ⅱ9	内分泌疾患
10	一般臨床Ⅱ10	血液・造血器疾患
11	一般臨床Ⅱ11	腎・尿路疾患
12	一般臨床Ⅱ12	神経疾患
13	一般臨床Ⅱ13	感染症
14	一般臨床Ⅱ14	リウマチ・膠原病・アレルギー
15	一般臨床Ⅱ15	生活習慣病とその予防

回	テ　ー　マ	内　　容
16	一般臨床Ⅱ16	期末試験
17	一般臨床Ⅱ17	解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　一般臨床医学	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔道整復術の適応（柔道整復術の適応）		柔道整復学科／3年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復術の適応と非適応を知り医師との連携を考えることが出来るようにすることを目的とする

授業終了時の到達目標

整形外科学や一般臨床医学また、外科学等の教科が、関連することを理解し臨床に応用とすることをめざす。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	柔道整復術の適応　1	柔道整復術の適応 医療面接にて
2	柔道整復術の適応　2	柔道整復術の適応　診察にて
3	柔道整復術の適応　3	柔道整復術の適応　診察にて
4	柔道整復術の適応　4	柔道整復術の適応　診察にて
5	柔道整復術の適応　5	柔道整復術の適応　診察にて
6	柔道整復術の適応　6	柔道整復術の適応　画像診断にて
7	柔道整復術の適応　7	柔道整復術の適応　画像診断にて
8	柔道整復術の適応　8	柔道整復術の適応　画像診断にて
9	柔道整復術の適応　9	柔道整復術の適応
10	柔道整復術の適応　10	柔道整復術の適応
11	柔道整復術の適応　11	柔道整復術の適応
12	柔道整復術の適応　12	柔道整復術の適応
13	柔道整復術の適応　13	柔道整復術の適応
14	柔道整復術の適応　14	期末試験
15	柔道整復術の適応　15	解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
柔道整復学の適応	出席率	10.0%	
	授業態度	10.0%	
	期末試験	80.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔道実技Ⅲ（保健医療福祉と柔道整復の理念）		柔道整復学科／3年	2024／通年	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
分	23回	1単位（45時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

認定実技審査に向けた総仕上げをし、全員合格できるように授業をすすめる

授業終了時の到達目標

認定実技審査に向けた総仕上げをし、全員合格することを目標とする

回	テ　ー　マ	内　　容
1	柔道実技Ⅲ　1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明
2	柔道実技Ⅲ　2	受身・礼法
3	柔道実技Ⅲ　3	受身・礼法・投の形（手わざ）
4	柔道実技Ⅲ　4	受身・礼法・投の形（手わざ）
5	柔道実技Ⅲ　5	受身・礼法・投の形（手わざ）
6	柔道実技Ⅲ　6	受身・礼法・投の形（手わざ）
7	柔道実技Ⅲ　7	受身・礼法・投の形（手わざ）
8	柔道実技Ⅲ　8	受身・礼法・投の形（腰わざ）
9	柔道実技Ⅲ　9	受身・礼法・投の形（腰わざ）
10	柔道実技Ⅲ　10	受身・礼法・投の形（腰わざ）
11	柔道実技Ⅲ　11	受身・礼法・投の形（腰わざ）
12	柔道実技Ⅲ　12	受身・礼法・投の形（腰わざ）
13	柔道実技Ⅲ　13	受身・礼法・投の形（足わざ）
14	柔道実技Ⅲ　14	受身・礼法・投の形（足わざ）
15	柔道実技Ⅲ　15	受身・礼法・投の形（足わざ）

回	テ　ー　マ	内　　容
16	柔道実技Ⅲ　16	受身・礼法・投の形（足わざ）
17	柔道実技Ⅲ　17	受身・礼法・投の形（足わざ）
18	柔道実技Ⅲ　18	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）
19	柔道実技Ⅲ　19	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取
20	柔道実技Ⅲ　20	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取
21	柔道実技Ⅲ　21	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取
22	柔道実技Ⅲ　22	受身・礼法・投の形（手・腰・足わざ）・約束乱取
23	柔道実技Ⅲ　23	期末試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
柔道(南江堂)	出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
関係法規（保健医療福祉と柔道整復の理念）		柔道整復学科／3年	2024／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位（68時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師として必要な法的知識、その教育を通して柔道整復師としての倫理観の徹底、順法精神の涵養等、医事関係法規を学ぶ。

授業終了時の到達目標

法を通して、柔道整復とは何かを考える力を養う。

回	テ　ー　マ	内　　容
1	関係法規　1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明
2	関係法規　2	序論　法の意義
3	関係法規　3	柔道整復師法とその関連内容　総則
4	関係法規　4	柔道整復師法とその関連内容　免許
5	関係法規　5	柔道整復師法とその関連内容　免許
6	関係法規　6	柔道整復師法とその関連内容　免許
7	関係法規　7	柔道整復師法とその関連内容　柔道整復師国家試験
8	関係法規　8	柔道整復師法とその関連内容　業務
9	関係法規　9	柔道整復師法とその関連内容　業務
10	関係法規　10	柔道整復師法とその関連内容　施術所
11	関係法規　11	柔道整復師法とその関連内容　雑則
12	関係法規　12	柔道整復師法とその関連内容　罰則
13	関係法規　13	柔道整復師法とその関連内容　罰則
14	関係法規　14	柔道整復師法とその関連内容　指定登録機関及び指定試験機関
15	関係法規　15	柔道整復師法とその関連内容　附則

回	テ　ー　マ	内　　容
16	関係法規　　16	前期期末試験
17	関係法規　　17	解答・解説
18	関係法規　　18	関係法規　医療従事者の資格法
19	関係法規　　19	関係法規　医療従事者の資格法
20	関係法規　　20	関係法規　医療従事者の資格法
21	関係法規　　21	関係法規　医療法
22	関係法規　　22	関係法規　医療法
23	関係法規　　23	関係法規　医療法
24	関係法規　　24	関係法規　社会保険関係法規
25	関係法規　　25	関係法規　社会保険関係法規
26	関係法規　　26	関係法規　社会保険関係法規
27	関係法規　　27	関係法規　社会保険関係法規
28	関係法規　　28	関係法規　社会保険関係法規
29	関係法規　　29	関係法規　社会保険関係法規
30	関係法規　　30	関係法規　社会保険関係法規
31	関係法規　　31	関係法規　社会保険関係法規
32	関係法規　　32	関係法規　社会保険関係法規
33	関係法規　　33	後期期末試験
34	関係法規　　34	解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　関係法規	出席率 期末試験	20.0% 80.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
基礎柔道整復学Ⅲ（基礎柔道整復学）		柔道整復学科／3年	2024／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	17回	2単位（34時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

1・２年生で学んだ柔道整復理論基礎の復習を行い知識の整理と共に深く学ぶことを目指す。　外傷保存療法の経過および治癒の判定を含む。

授業終了時の到達目標

国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う

回	テ　ー　マ	内　　容
1	基礎柔道整復学Ⅲ1	骨折の保存療法の経過および治癒の判定１
2	基礎柔道整復学Ⅲ2	骨折の保存療法の経過および治癒の判定２
3	基礎柔道整復学Ⅲ3	骨折の保存療法の経過および治癒の判定３
4	基礎柔道整復学Ⅲ4	脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定１
5	基礎柔道整復学Ⅲ5	脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定２
6	基礎柔道整復学Ⅲ6	脱臼の保存療法の経過及び治癒の判定３
7	基礎柔道整復学Ⅲ7	捻挫の保存療法の経過および治癒の判定
8	基礎柔道整復学Ⅲ8	挫傷の保存療法の経過および治癒の判定
9	基礎柔道整復学Ⅲ9	骨の損傷：骨折の合併症
10	基礎柔道整復学Ⅲ10	骨の損傷：小児骨折・高齢者骨折の特徴
11	基礎柔道整復学Ⅲ11	骨の損傷：骨折の癒合日数、骨折の予後
12	基礎柔道整復学Ⅲ12	関節の損傷：関節の構造と形態
13	基礎柔道整復学Ⅲ13	関節の損傷：関節損傷の概説
14	基礎柔道整復学Ⅲ14	関節の損傷：関節構成組織損傷
15	基礎柔道整復学Ⅲ15	関節の損傷：脱臼

回	テ　ー　マ	内　　容
16	基礎柔道整復学Ⅲ16	期末試験
17	基礎柔道整復学Ⅲ17	解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学（理論編）	期末試験 出席率 授業態度	75.0% 15.0% 10.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅴ（臨床柔道整復学）		柔道整復学科／3年	2024／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位（68時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

骨折・脱臼・捻挫・打撲の治療の参考にするための超音波画像を学ぶ。

柔道整復術適応の臨床的判定・医療画像の理解を含む

授業終了時の到達目標

国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う

回	テ　ー　マ	内　　容
1	臨床柔道整復学Ⅴ	ガイダンス（超音波画像とは）、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明
2	臨床柔道整復学Ⅴ	法律上の問題
3	臨床柔道整復学Ⅴ	X線、MRI、超音波診断装置の読影方法
4	臨床柔道整復学Ⅴ	上肢の機能解剖
5	臨床柔道整復学Ⅴ	前腕の超音波観察
6	臨床柔道整復学Ⅴ	前腕の超音波観察
7	臨床柔道整復学Ⅴ	手指の超音波観察
8	臨床柔道整復学Ⅴ	手指の超音波観察
9	臨床柔道整復学Ⅴ	上腕の超音波観察
10	臨床柔道整復学Ⅴ	上腕の超音波観察
11	臨床柔道整復学Ⅴ	上腕の超音波観察
12	臨床柔道整復学Ⅴ	肩部の超音波観察
13	臨床柔道整復学Ⅴ	肩部の超音波観察
14	臨床柔道整復学Ⅴ	胸部の超音波観察
15	臨床柔道整復学Ⅴ	足関節の機能解剖

回	テ　ー　マ	内　　容
16	臨床柔道整復学Ⅴ	前期期末試験
17	臨床柔道整復学Ⅴ	解答・解説
18	臨床柔道整復学Ⅴ	足関節の超音波観察
19	臨床柔道整復学Ⅴ	足関節の超音波観察
20	臨床柔道整復学Ⅴ	膝部の機能解剖
21	臨床柔道整復学Ⅴ	膝部の超音波観察
22	臨床柔道整復学Ⅴ	膝関節の超音波観察
23	臨床柔道整復学Ⅴ	股関節の超音波観察
24	臨床柔道整復学Ⅴ	股関節の超音波観察
25	臨床柔道整復学Ⅴ	体幹・頭蓋の解剖と骨折
26	臨床柔道整復学Ⅴ	上肢の解剖と骨折
27	臨床柔道整復学Ⅴ	上肢の解剖と骨折
28	臨床柔道整復学Ⅴ	下肢の解剖と骨折
29	臨床柔道整復学Ⅴ	下肢の解剖と骨折
30	臨床柔道整復学Ⅴ	肩関節の脱臼復習
31	臨床柔道整復学Ⅴ	肩関節の脱臼復習
32	臨床柔道整復学Ⅴ	肩関節の脱臼復習
33	臨床柔道整復学Ⅴ	後期期末試験
34	臨床柔道整復学Ⅴ	解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
プリント配布	期末試験 出席率 授業態度	75.0% 15.0% 10.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床柔道整復学Ⅵ（臨床柔道整復学）		柔道整復学科／3年	2024／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	34回	4単位（68時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師が施術所で使用する物理療法機器等の取り扱いを学び、安全に人体に使用できるようになる

授業終了時の到達目標

国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う

回	テ　ー　マ	内　　容
1	臨床柔道整復学Ⅵ1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明
2	臨床柔道整復学Ⅵ2	電気療法機器の取り扱い方
3	臨床柔道整復学Ⅵ3	電気療法機器の取り扱い方
4	臨床柔道整復学Ⅵ4	電気療法機器の取り扱い方
5	臨床柔道整復学Ⅵ5	寒冷療法機器の取り扱い方
6	臨床柔道整復学Ⅵ6	寒冷療法機器の取り扱い方
7	臨床柔道整復学Ⅵ7	寒冷療法機器の取り扱い方
8	臨床柔道整復学Ⅵ8	光線療法機器の取り扱い方
9	臨床柔道整復学Ⅵ9	光線療法機器の取り扱い方
10	臨床柔道整復学Ⅵ10	光線療法機器の取り扱い方
11	臨床柔道整復学Ⅵ11	温熱療法機器の取り扱い方
12	臨床柔道整復学Ⅵ12	温熱療法機器の取り扱い方
13	臨床柔道整復学Ⅵ13	温熱療法機器の取り扱い方
14	臨床柔道整復学Ⅵ14	脊椎牽引療法機器の取り扱い方
15	臨床柔道整復学Ⅵ15	脊椎牽引療法機器の取り扱い方

回	テ　ー　マ	内　　容
16	臨床柔道整復学Ⅵ16	前期期末試験
17	臨床柔道整復学Ⅵ17	解答・解説
18	臨床柔道整復学Ⅵ　18	下肢骨折：膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨
19	臨床柔道整復学Ⅵ19	下肢骨折：下腿骨近位端部骨折
20	臨床柔道整復学Ⅵ20	下肢骨折：下腿骨近位端部骨折
21	臨床柔道整復学Ⅵ21	下肢骨折：下腿骨骨幹部骨折
22	臨床柔道整復学Ⅵ22	下肢骨折：下腿骨骨幹部骨折
23	臨床柔道整復学Ⅵ23	下肢骨折：下腿骨遠位端部骨折
24	臨床柔道整復学Ⅵ24	下肢骨折：下腿骨遠位端部骨折
25	臨床柔道整復学Ⅵ25	下肢骨折：足関節の脱臼骨折
26	臨床柔道整復学Ⅵ26	下肢骨折：足関節の脱臼骨折
27	臨床柔道整復学Ⅵ27	下肢骨折：足関節の脱臼骨折
28	臨床柔道整復学Ⅵ28	下肢骨折：足根骨骨折
29	臨床柔道整復学Ⅵ29	下肢骨折：足根骨骨折
30	臨床柔道整復学Ⅵ30	下肢骨折：中足骨骨折
31	臨床柔道整復学Ⅵ31	下肢骨折：中足骨骨折
32	臨床柔道整復学Ⅵ32	下肢骨折：足指骨骨折
33	臨床柔道整復学Ⅵ33	後期期末試験
34	臨床柔道整復学Ⅵ34	解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学（理論編）	期末試験 出席率 授業態度	75.0% 15.0% 10.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅳ（柔道整復実技）		柔道整復学科／3年	2024／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
分	34回	2単位（68時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師が実際に触れる外傷を理論的に学び、柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。

授業終了時の到達目標

臨床現場に即応できる技術を踏まえ国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う

回	テ　ー　マ	内　　容
1	柔整実技Ⅳ1	ガイダンス、授業内容と進め方、成績のつけ方の説明
2	柔整実技Ⅳ2	高齢者の整形外科的損傷と予防　足部の障害
3	柔整実技Ⅳ3	高齢者の整形外科的損傷と予防　大腿部・下腿部の障害
4	柔整実技Ⅳ4	高齢者の整形外科的損傷と予防　腰部の障害
5	柔整実技Ⅳ5	高齢者の整形外科的損傷と予防　肩関節の障害
6	柔整実技Ⅳ6	高齢者の整形外科的損傷と予防　肘関節の障害
7	柔整実技Ⅳ7	高齢者の整形外科的損傷と予防　手関節の障害
8	柔整実技Ⅳ8	競技者の整形外科的損傷と予防、スポーツ障害
9	柔整実技Ⅳ9	競技者の整形外科的損傷と予防、足部の障害
10	柔整実技Ⅳ10	競技者の整形外科的損傷と予防、下腿部の障害
11	柔整実技Ⅳ11	競技者の整形外科的損傷と予防、大腿部の障害
12	柔整実技Ⅳ12	競技者の整形外科的損傷と予防、腰部の障害
13	柔整実技Ⅳ13	競技者の整形外科的損傷と予防、肩関節の障害
14	柔整実技Ⅳ14	競技者の整形外科的損傷と予防、肘関節の障害
15	柔整実技Ⅳ15	競技者の整形外科的損傷と予防、手関節の障害

回	テ　ー　マ	内　　容
16	柔整実技Ⅳ16	前期期末試験
17	柔整実技Ⅳ17	解答・解説
18	柔整実技Ⅳ18	下肢の脱臼　　復習
19	柔整実技Ⅳ19	股関節脱臼　　復習
20	柔整実技Ⅳ20	膝関節脱臼　　復習
21	柔整実技Ⅳ21	膝蓋骨脱臼　　復習
22	柔整実技Ⅳ22	距腿関節脱臼　　復習
23	柔整実技Ⅳ23	リスフラン関節脱臼復習
24	柔整実技Ⅳ24	ショパール関節脱臼復習
25	柔整実技Ⅳ25	足指脱臼復習
26	柔整実技Ⅳ26	肘関節脱臼復習
27	柔整実技Ⅳ27	肘関節脱臼　　復習
28	柔整実技Ⅳ28	手関節部脱臼復習
29	柔整実技Ⅳ29	手関節部脱臼復習
30	柔整実技Ⅳ30	手指部脱臼復習
31	柔整実技Ⅳ31	臨床実習前試験
32	柔整実技Ⅳ32	臨床実習前試験
33	柔整実技Ⅳ33	後期期末試験
34	柔整実技Ⅳ34	解答・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学（理論編）	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅵ（柔道整復実技）		柔道整復学科／3年	2024／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
分	51回	3単位（102時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。

授業終了時の到達目標

臨床現場に即応できる技術を踏まえ国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う

回	テ　ー　マ	内　　容
1	柔整実技Ⅵ1	鎖骨骨折概説と特徴
2	柔整実技Ⅵ2	鎖骨骨折整復
3	柔整実技Ⅵ3	鎖骨骨折整復
4	柔整実技Ⅵ4	鎖骨骨折整復
5	柔整実技Ⅵ5	鎖骨骨折整復
6	柔整実技Ⅵ6	上腕骨外科頚骨折概説と特徴
7	柔整実技Ⅵ7	上腕骨外科頚骨折整復
8	柔整実技Ⅵ8	上腕骨外科頚骨折整復
9	柔整実技Ⅵ9	上腕骨外科頚骨折整復
10	柔整実技Ⅵ10	上腕骨外科頚骨折整復
11	柔整実技Ⅵ11	コーレス骨折概要と特徴
12	柔整実技Ⅵ12	コーレス骨折整復
13	柔整実技Ⅵ13	コーレス骨折整復
14	柔整実技Ⅵ14	コーレス骨折整復
15	柔整実技Ⅵ15	コーレス骨折整復

回	テ　ー　マ	内　　容
16	柔整実技Ⅵ16	肩関節脱臼概説と特徴
17	柔整実技Ⅵ17	肩関節脱臼整復
18	柔整実技Ⅵ18	肩関節脱臼整復
19	柔整実技Ⅵ19	肩関節脱臼整復
20	柔整実技Ⅵ20	肩関節脱臼整復
21	柔整実技Ⅵ21	肩鎖関節脱臼概説と特徴
22	柔整実技Ⅵ22	肩鎖関節脱臼整復
23	柔整実技Ⅵ23	肩鎖関節脱臼整復
24	柔整実技Ⅵ24	肩鎖関節脱臼整復
25	柔整実技Ⅵ25	肩鎖関節脱臼整復
26	柔整実技Ⅵ26	肘関節脱臼概説と特徴
27	柔整実技Ⅵ27	肘関節脱臼整復
28	柔整実技Ⅵ28	肘関節脱臼整復
29	柔整実技Ⅵ29	肘関節脱臼整復
30	柔整実技Ⅵ30	肘内障概説と特徴
31	柔整実技Ⅵ31	肘内障整復
32	柔整実技Ⅵ32	肘内障整復
33	柔整実技Ⅵ33	肘内障整復
34	柔整実技Ⅵ34	期末試験
35	柔整実技Ⅵ35	鎖骨骨折固定

回	テ　ー　マ	内　　容
36	柔整実技Ⅵ36	鎖骨骨折固定
37	柔整実技Ⅵ37	外科頚骨折固定
38	柔整実技Ⅵ38	外科頚骨折固定
39	柔整実技Ⅵ39	コーレス骨折固定
40	柔整実技Ⅵ40	コーレス骨折固定
41	柔整実技Ⅵ41	肩脱臼固定
42	柔整実技Ⅵ42	肩脱臼固定
43	柔整実技Ⅵ43	肩鎖関節脱臼固定
44	柔整実技Ⅵ44	肩鎖関節脱臼固定
45	柔整実技Ⅵ45	肘脱臼固定
46	柔整実技Ⅵ46	肘脱臼固定
47	柔整実技Ⅵ47	総復習
48	柔整実技Ⅵ48	総復習
49	柔整実技Ⅵ49	総復習
50	柔整実技Ⅵ50	期末試験
51	柔整実技Ⅵ51	解答･解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学（理論編）	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
柔整実技Ⅶ（柔道整復実技）		柔道整復学科／3年	2024／通年	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
分	51回	3単位（102時間）	必須	講師

授　業　の　概　要

柔道整復師が実際に触れる外傷で、認定実技診査項目を学ぶ。柔道整復術の意義、社会的役割を理解し、医療に携わるものとして社会からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と医学的知識の習得を促す。

授業終了時の到達目標

臨床現場に即応できる技術を踏まえ国家試験合格に向けてそれぞれの科目の知識を統合して理解できるよう知識のブラッシュアップを行う

回	テ　ー　マ	内　　容
1	柔整実技Ⅶ1	腱板損傷検査法
2	柔整実技Ⅶ2	腱板損傷検査法
3	柔整実技Ⅶ3	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法
4	柔整実技Ⅶ4	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法
5	柔整実技Ⅶ5	大腿部肉離れ検査法
6	柔整実技Ⅶ6	大腿部肉離れ検査法
7	柔整実技Ⅶ7	下腿三頭筋損傷検査法
8	柔整実技Ⅶ8	下腿三頭筋損傷検査法
9	柔整実技Ⅶ9	アキレス腱断裂検査法
10	柔整実技Ⅶ10	アキレス腱断裂検査法
11	柔整実技Ⅶ11	足部捻挫検査法
12	柔整実技Ⅶ12	足部捻挫検査法
13	柔整実技Ⅶ13	膝内側側副靭帯損傷検査法
14	柔整実技Ⅶ14	膝内側側副靭帯損傷検査法
15	柔整実技Ⅶ15	膝前十字靭帯損傷検査法

回	テ　ー　マ	内　　容
16	柔整実技Ⅶ16	膝前十字靭帯損傷検査法
17	柔整実技Ⅶ17	膝内側半月板損傷検査法
18	柔整実技Ⅶ18	膝内側半月板損傷検査法
19	柔整実技Ⅶ19	膝絆創膏固定
20	柔整実技Ⅶ20	膝絆創膏固定
21	柔整実技Ⅶ21	足関節局所副子固定
22	柔整実技Ⅶ22	足関節局所副子固定
23	柔整実技Ⅶ23	足絆創膏固定
24	柔整実技Ⅶ24	アキレス腱断裂固定
25	柔整実技Ⅶ25	アキレス腱断裂固定
26	柔整実技Ⅶ26	さらし固定厚紙副子含む　　肋骨骨折
27	柔整実技Ⅶ27	さらし固定厚紙副子含む　　肋骨骨折
28	柔整実技Ⅶ28	ミッテルドルフ三角副子固定
29	柔整実技Ⅶ29	ミッテルドルフ三角副子固定
30	柔整実技Ⅶ30	アルフェンス固定指部
31	柔整実技Ⅶ31	アルフェンス固定指部
32	柔整実技Ⅶ32	下腿骨骨折クラーメル固定
33	柔整実技Ⅶ33	下腿骨骨折クラーメル固定
34	柔整実技Ⅶ34	期末試験
35	柔整実技Ⅶ35	骨折部の整復復習

回	テ　ー　マ	内　　容
36	柔整実技Ⅶ36	骨折部の整復復習
37	柔整実技Ⅶ37	脱臼部の整復復習
38	柔整実技Ⅶ38	脱臼部の整復復習
39	柔整実技Ⅶ39	軟部組織損傷(上肢) 検査法
40	柔整実技Ⅶ40	軟部組織損傷(膝部)検査法
41	柔整実技Ⅶ41	軟部組織損傷（下腿・足部）検査法
42	柔整実技Ⅶ42	絆創膏固定復習
43	柔整実技Ⅶ43	絆創膏固定復習
44	柔整実技Ⅶ44	固定法復習
45	柔整実技Ⅶ45	整復法復習
46	柔整実技Ⅶ46	軟部組織損傷検査法復習
47	柔整実技Ⅶ47	軟部組織損傷検査法復習
48	柔整実技Ⅶ48	総復習
49	柔整実技Ⅶ49	総復習
50	柔整実技Ⅶ50	期末試験
51	柔整実技Ⅶ51	解答･解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
全国柔道整復学校協会監修　柔道整復学（理論編）	期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	